

令和6年度第2回 中間市総合教育会議会議録

- 1 日 時 令和6年12月19日（木）14時
- 2 場 所 市庁舎別館3階 特別会議室
- 3 出席者 市長 福田 浩
教育長 蔵元洋一
教育委員 衛藤修身、太田かおり、八木秀和
- 4 参加者 副市長 田代謙介
総務部長 後藤謙治
未来創造部長 井上 篤
市長公室長 芳賀麻里子
公共施設管理課長 熊谷憲一郎
- 5 事務局 教育部長 清水秀一
教育総務課長 山口研治
学校教育課長 船元幸徳
指導室長 靄 浩二
生涯学習課長 深川英明
教育総務課課長補佐 近野久幸
学校教育課課長補佐 濱田大輔
学校教育課課長補佐 掛橋賢議
生涯学習課課長補佐 大畑祐一郎
教育総務課計画係長 原田真央
教育総務課計画係 久保有未
教育総務課教育総務係長 秦 薫
- 6 傍聴人 10人
- 7 議事日程 別紙のとおり
- 8 議事次第 別紙のとおり

中 間 市 総 合 教 育 会 議 事 日 程

令和6年12月19日（木）14時00分

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事
新中学校施設の配置方針について
- 4 閉会

[開会時刻：14時00分]

清水教育部長	只今より令和6年12月中間市総合教育会議を開催いたします。本日の進行を務めます教育部長の清水でございます。よろしくお願いいたします。 はじめに、本日開催いたします総合教育会議につきまして、改めてご説明いたします。総合教育会議とは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき、本市の教育を行うための諸条件の整備及びその他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図る重点的に講ずべき施策について、市長と教育委員会が意見交換を行う会議でございます。この会議は、議題について決定をする場ではなく、市長と教育委員会がそれぞれの立場から意見交換を行い、協議や調整等を行う場であります。それでは、会議次第に沿って進めさせていただきます。 はじめに、福田市長からご挨拶をお願いいたします。
福田市長	皆さま、こんにちは。 本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。それでは会議の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。着座にて失礼いたします。全国的に高度経済成長期に整備した公共施設の多くで老朽化が進行し一斉に更新時期を迎えようとしております。施設の老朽化は、本市の学校施設も例外ではなく中学校4校小学校6校の全てが建築後40年から50年が経過するなど避けて通ることができない課題となっております。これまでも施設修繕や耐震化、空調設備設置等の環境整備等を行ってまいりましたが、高機能で多様化する学習形態への適応など社会情勢の変化に対応したさらなる環境整備が求められております。一方で中間市の小中学校に通学する又は通学を控えている年少人口は、ピークでした昭和60年頃に比べ40%程度にまで減少しております。単学級や小規模校化が続く学校も生じておりまして、学級編成や部活動、安全な通学体制の維持に影響を及ぼしております。このような状況に置いて本市としては児童生徒1人1人の可能性を引き出し、個別最適な学びと協働の学びの実現に向け、最適な教育環境を整備し、充実した環境の中で更なる教育の質の向上を図ることができる学校施設であるとともに、市のまちづくりの方向性を踏まえた学校施設再編を実施することから本年6月28日に開催されました総合教育会議におきまして、新中学校施設の配置方針を教育委員の皆さまにご説明したところでございます。本日は新中学校施設としてお示ししています中間中学校と東中学校敷地の配置方針について、教育委員の皆さまと時間の許す限り、忌憚のない意見交換をさせて

	いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。
清水教育部長	ありがとうございました。 それでは、議事に入ります。議事につきましては、中間市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、福田市長に進めていただきます。それでは、福田市長よりお願いいたします。
福田市長	ご指名によりまして、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、議事の新中学校施設（中間中学校及び中間東中学校敷地）の配置方針につきまして、説明をお願いします。
蔵元教育長	説明につきましては、担当の教育総務課長より行っていただきます。
山口教育総務課長	教育総務課の山口でございます。資料に基づき、ご説明いたします。本年6月28日に開催されました総合教育会議において市長よりご説明がありました新中学校施設の配置方針について、PTA、教職員、生徒から意見聴取を行いましたことについて、ご報告いたします。 まず、1新中学校施設配置方針に関する小中学校長及び教頭、PTA 役員会等との実施協議の経緯についてです。表にありますとおり、各小中学校長及び教頭、PTA 役員の皆さまにご説明し、協議を実施いたしました。回数といたしましては、全小中学校長及び教頭は各1回、PTA 役員は学校単位と会長会等合計して8回の協議のほか、香春町立香春思永館施設見学等を実施いたしました。 次に、2中学校再編における保護者・教職員アンケートの結果報告についてです。中間中学校及び中間東中学校敷地を活用した施設整備等について意見を伺うことを目的として、令和6年8月26日月曜日から同年9月1日日曜日の間に、対象を小中学校全10校の保護者及び教職員とし、各学校からの「あんしんメール」を利用してアンケート調査を実施いたしました。 アンケート結果のまとめといたしましては、 ①学校施設の整備工事期間中の、通学しながらの工事と別敷地に移転しての工事のどちらを希望するかについては、意見がきれいに分かれる結果となりました。このため、生徒の安全や教育環境等を十分検討する必要があると思われます。 ②現在の学校へのアクセス道については、両敷地共に道幅を広げる整備が必要が約40%、新たなアクセス道の整備が必要が約20%となりました。

また、学校敷地内の整備に関する自由記述 273 件のうち、100 件以上が安全な通学環境整備を希望するものであったことから、アクセス道の整備を含む安全な通学環境の整備は、重要な課題の一つであると思われます。

③通学時間の許容範囲については、30 分以内との回答が約 90 %となりました。中学校 4 校を 2 校へ再編するにあたり、現在の校区と同等の概ね 3 km を通学圏内と計画していること、自転車通学の導入を検討することにより、多くの保護者が許容範囲内と考える時間内での通学が可能であると思われます。また、自転車通学の導入検討においては、限りある敷地の有効活用、良質な教育環境整備のため、自転車置場の台数の検討も課題の一つであると思われます。

④どのような新中学校を望むかについての自由記述 733 件のうち、主なご意見といたしましては、ICT に対応した広い教室、教室・体育館のエアコン、駐車場、エレベーター、避難所機能など施設整備についての様々な要望や、再編により生徒数が増えることによる、いじめ、教育指導のサポートが十分に受けられるのかなどの不安、校区分けについての不安などのご回答をいただきました。また、再編についての思いとして、賛成・前向きのご回答を 125 件、反対・後向きのご回答 32 件、その他のご回答 12 件をいただきました。

教育委員会事務局といたしましては、「子供たちが通いたい学校・保護者が通わせたい学校・教職員が働きたい学校」を目指し、保護者や教職員の皆さまからいただいたご意見を参考に、学校施設整備方針の策定や施設整備に取り組んでまいりたいと考えています。

次に、3 中間中学校敷地活用に係る課題等の整理についてです。令和 6 年 11 月 11 日に PTA 役員、校長、教頭、教育委員会事務局で施設見学を実施いたしました。その際、生徒からの意見聴取を行い、意見のとりまとめを行いました。

その結果、重点課題として、①木が多く、大きい ②敷地内高低差が激しい ③アクセス道の道幅が狭いの 3 つとなりました。

その他の PTA、教職員、生徒の主なご意見といたしましては、

- ・全てが狭く、老朽化しているため、校舎、体育館等は新築にしてほしい
- ・木を伐採して明るい学校にしてほしい
- ・高低差を解消する等、安全な学校となるよう整備してほしい
- ・道路は狭く、歩道と車道の境界も無いため、拡幅する等で生徒が安全に通学できるよう整備してほしい等となっております

最後に、4 中間東中学校敷地活用に係る課題等の整理についてです。

令和6年11月18日に施設見学を実施し、中間中学校と同様に意見の取りまとめを行いました。

その結果、重点課題として、①木が多く、大きい ②敷地内高低差が激しい ③アクセス道の道幅が狭い ④法面の整備と有効活用の4つとなりました。

その他のPTA、教職員、生徒の主なご意見といたしましては、

- ・全てが狭く、老朽化しているため、校舎、体育館等は新築にしてほしい
- ・木を伐採して明るい学校にしてほしい
- ・高低差を解消する等、安全な学校となるよう整備してほしい
- ・道路の拡幅や新たな道路の整備等によって歩車を分離し、生徒が安全に通学できるよう整備してほしい
- ・全方向からの生徒が通学しやすい進入路を整備してほしい
- ・保護者が送迎しやすい環境を整えてほしい
- ・南中より不便になるのは受け入れられない等となっております。

新中学校施設の配置方針に関するこれまでの経緯、アンケート調査の結果、PTA、教職員、生徒からの意見聴取に関するご報告は以上です。

福田市長

ありがとうございました。それでは意見交換に入らせていただきます。ご意見等がございましたらよろしくお願いいたします。八木教育委員。

八木教育委員

よろしくお願いします。今回の学校施設再編に関しまして、私からも意見させていただきたいと思います。まず、前回の総合教育会議でも申し上げましたとおり、中間中学校及び東中学校の敷地を活用した再編方針には賛同しております。その賛同を軸に7月から月1回のペースで教育委員会事務局とPTA役員の皆さんと意見交換会や香春町にある思永館や、今現在、候補地となっている中間中学校と東中学校の視察を行ってきました。私も市内の小中学校に通う子を持つ親として、また現役のPTA役員としてその活動に参加させていただきました。月1回の意見交換会では、各校のPTA役員さんから様々な意見、考えを出してもらい、本当に毎回、活発な意見交換会となっており、すごく有意義な時間となっています。これまで、あまり感じることはできなかった再編問題に関して少しずつですが、前進していると感じているところです。しかし、保護者の中には新しい学校への期待と同時に、現状からの変化に対する不安な気持ちも存在しています。その不安を少しでも減らす努力が必要だとも考えます。その一番の方法は我々、保護者が我が子を通わせる時にワクワクする、明るい希望の持てる学校となることだと思っています。

10月に思永館を視察させていただいた際に、正直、同じ公立の学校でこうも違うのか、最新の学校というのは、このような風になっているのかと、驚くことばかりで、我が子がこのような環境下で学んでいる姿を想像するだけで、私自身ワクワクしました。一緒に視察したPTA会長さんから同じような意見を多く聞いております。確かに施設だけが立派で、それに見合った教育の中身が伴わなければ意味はありませんが、まずは安全に心地よい空間と環境を子供たちへ提供すべきだと考えます。それを踏まえて私からは、大きく3点の意見と要望を申し上げさせていただきます。

まず、1点目は通学時の安全の確保です。中間中学校及び東中学校ともに校門前の通学路がかなり狭くなっています。中間中学校は車両の離合が難しいのはもちろん、歩道と車道とを分けるブロックなどありません。徒歩、自転車、車両の通行が集中しますので、安全な通学路の確保が求められます。東中学校も歩道と車道はブロックで分離されているとはいえ、車両の離合は難しいですし、生徒数も多くなる中、自家用車で送迎も今以上に多くなることが予想されます。また、扇ヶ浦側の階段の勾配はかなり急なだけでなく、8メートルを超える高さもあることから、万が一、落下した際などは命の危険が伴います。両校ともに民家と隣接しているので、道路幅の拡張が現実的に可能かは分かりませんが、新しい通学路の確保など安全面に配慮した設計をお願いしたいです。

2点目は、学校の敷地内及び周辺環境整備です。中間中学校と東中学校ともに段差の解消や法面整備、樹木の伐採など、想像以上に整備が必要と思われる箇所が多くあります。今年6月の総合教育会議でも、行政が責任を持って行う事項であるとおっしゃっていただいておりますが、その点についても十分に配慮していただきたいと思っております。

3点目は、やはり新しい学校は新しい校舎、すなわち新築での開校を強く強くお願いしたいということです。中間中学校と東中学校の現地視察をPTA会長さん方と行いましたが、両校ともに痛みが激しく、補修では賄いきれない箇所も数多くある状況です。今現在、通っている生徒やそこで働く先生方のことを考えると非常に心苦しくなります。香春町の思永館を視察させてもらいましたが、余裕のある教室はもちろんのこと、教室や廊下は広々としていて、勉強机も今や当たり前になったタブレット端末を置いても、十分に使える余裕のある大きさです。小学校低学年の教室には手洗い場や多目的に使うことのできる広いスペースが教室の中に設置されていたり、私のこれまでの常識では考えられない設備や構造が多くあり、もちろんWI-FIはすべて繋がっていますし、体育館は冷暖房完備で、子供たちのことを十分に配慮した学校施設でした。中間市の子供たちも、このよう

な時代のニーズに合った新しい学校で学べるようになることを他校のPTA会長、役員さんの総意として切にお願いいたします。

他にも、特別支援学級に通う児童・生徒たちへの対応、LGBTQへの対応など、まだまだこの場では言い出すと切りがない課題が多くあるのが、この再編問題ではあります。この半年間、私もPTAの一員として他の学校の役員さんたちや教育委員会事務局の方と多くの議論を交わしてきました。そもそも、ほとんどの役員さんたちは、我が子が再編後の学校で学ぶことのない方々ばかりです。それにもかかわらず、この問題に対して、自分の時間を削って真剣に議論してくれている姿に感動すら覚えます。それもこれも、50年後、100年後の中間市の未来を左右する重要なことであるとの問題意識から、中間市民の一人として、真正面から前向きにこの問題に向き合ってくれていると感じています。確かに財政上の問題もつきまとうことではありますが、今回の学校施設再編は、何よりも優先すべき未来への投資だと考えています。幕末から明治にかけて長岡藩で唱えられた「米百俵の精神」は当時の為政者に説いた精神であり、その考えが明治維新推進の一部となったとも言われています。つきましては、市長をはじめとした市長部局の皆さまにおかれましては、我々保護者の想いを十分に推察いただき、子供たちのため、中間市の将来のためにご尽力いただきたいと思います。いろいろと要望ばかりを申し上げて、申し訳ございませんが、以上が私からの意見とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

福田市長

大変貴重なご意見ありがとうございました。

まず、1点目の中間中学校と東中学校の校門前の道路を安全に通学できるように拡幅してほしいということですが、おっしゃるとおり十分な道幅があるとは思ってはおりません。道の両側には、私有地に民家がある状況ですので、道幅を広げましょうとは、やみくもに言えない状況です。しかしながら、安全な通学環境の整備というのは、学校再編では最優先の課題の一つであります。ですから、道路の拡幅、新たなアクセス道を含め、あらゆる選択肢を考えまして、最適な整備手法について車と生徒の動線を区分する方法など、安全な通学環境の構築に向け、検討してまいりたいと思います。

2点目の敷地内の高低差の問題や法面の整備、木が非常に非常に生い茂っているという問題ですが、これも同じく様々な面から考えております。前回の総合教育会議でも、東中学校の敷地内の高低差について言われました。そこで、緩やかなスロープの設置等によって、改善したいとお答えしたと

思います。さらに、学校施設に係る設計業務を、経験豊富な設計会社に委託する補正予算が今月の議会で承認されましたので、この中で十分な検討が、なされるものと承知しております。いずれにしましても、最適な整備手法を検討してまいりたいと思います。それから、法面のことに关しましても、前回、副市長から答えがあったと思いますが、学校再編というものは、市が行政としてやるべき問題で、子供と市民の皆さまの安全確保のために整備を実施しますと答えております。ですので、既存の擁壁を含め全周囲の法面の整備について、最適で且つ維持し続けられる整備手法を検討してまいりたいと思います。それから、木の伐採についても、鉄道の通行の妨げになるくらい木が伸びております。極力、樹木の伐採をいたしまして、維持し続けられる環境を整備することによって、働いてくださっている教職員の皆さまの負担を少しでも軽減できるように検討してまいりたいと思います。

3点目の校舎を新築で建て替えてほしいということですが、多様性のある教育のためには環境を構築するためにもということでありまゝ。近年の我が国の経済状況は低迷しているうえ、少子高齢化に伴う社会保障費の増加、生産年齢の減少、これに伴う税収の減少、近年の物価高騰など、中間市をとりまく財政状況は極めて厳しくなっております。物価高騰は建設分野においても例外はなく、人件費の高騰も相まって、学校施設整備事業費の大幅な増加が見込まれております。このような状況におきまして、文部科学省の調査におきまして、数年前のデータではありますが、学校統合に伴って新築した団体は約20%、改修した団体は約30%、整備を実施しなかった団体は約50%となっているそうです。私といたしましても、本市の宝ものであります子供たちのために時代のニーズに合った教育環境の整備は喫緊の課題であると考えております。学校整備におきましても教室の広さの確保も含めまして、校舎の建て替えと長寿命化改修の両方を選択し、その他の全体の事業費を把握したうえで、限られた予算と手出しを合わせた最適な整備手法を検討してまいりたいと考えております。仮に、校舎を長寿命化しようとする場合は、基本的に柱や梁は、そのまま利用するため、教室の広さを変更することは容易ではありません。そのため、教室を広くするのではなく、その他の空間を含めまして、施設の使用方法的工夫によって、対応できる部分の検討も重要となります。そのためにも、先日の議会で補正予算が成立しておりますので、実績豊富な設計会社の業務の中で十分な検討がなされるものと承知しております。何度も申し上げますが、本市の宝ものであります子供たちのために時代のニーズにあった教育環境の整備は喫緊の課題であります。学校整備においては、校舎の建て替えと

長寿命化改修の両方を選択肢として、その他の整備を含めた全体事業を把握したうえで、限られた予算と照らし合わせながら最適な整備手法を検討してまいりたいと思います。以上です。

それでは他にご意見ありますでしょうか。太田教育委員。

太田教育委員

よろしくお願いします。私も提案されています中学校4校から2校に再編、それから配置方針として、中間中学校と東中学校の敷地の活用については、賛成でございます。私からは5点、要望を述べさせていただきます。

まず、1点目は中間市にとって学校再編というのは、これまでにない一大事業だと思っています。こういう機会は、なかなかございませんので、この機会に学校教育の充実を学校再編と合わせまして、まちづくりを同時に行っていただきたいと思います。学校教育やまちが魅力で中間市に住みたい、まちを選ぶ理由というのは、子供がいる世帯は教育を見ますので、そういう意味で、学校教育の充実というのは、子育て世代を呼び込む非常に重要なポイントだと思っています。そういう意味で、教育の充実とまちづくりを同時にやっていただきたいという考えでいます。学校教育の再編を行うにあたり、やはり我が子を通わせたい学校づくりというものを、誰もが意識するのは、非常に重要だと思っています。実際に通うかどうかは別として、通うことをイメージして、ベストな学校をつくっていくということは、重要だと思っています。

2点目は、新築か長寿命化改修かについて、私も新築を強く希望します。もちろん、長寿命化でリフォームするということもあるのですが、やはり、実際に学校見学に行ってみますと、教室の広さは、今の時代では狭くなっています。教室の広さは、1人1人が十分に学ぶには、もっと広い教室が必要ですので、ぜひとも新築で、末永く持続可能な校舎づくりをやっていただきたいと強く希望します。今、設計のことがでていましたが、建てば良いというものではなく、魂をこめて子供たちが学びやすく、先生方も教えやすい、子供たちの学力が伸びていくような校舎づくり、学校づくり、環境整備というのは非常に重要だと思っています。そういう意味では、複数の設計会社を全国に応募しても良いし、プロポーザルをやっていただいて、その中から、より良い校舎やアイデアを選んでいく、そういう学校の校舎づくりをしてはどうかと考えております。どこにでもあるような校舎ではなく、ちょっと目を見張るような、そして使いやすい校舎をぜひ建てていただきたいと思っております。

3点目は、自転車通学についてです。通学は3km圏内ということで、とても良いと思いますが、徒歩で通いたい子供と、自転車で通いたい子供が

いると思います。自転車通学は、希望に応じて、ぜひ認めていただき、駐輪場を十分確保し、安全な受け入れ体制を整備していただきたいと思います。そして常々出ておりますが、安全な通学路の整備と確保は、非常に重要だと思っております。事故があっては、本当に取り返しがつきませんので、保護者が安心して子供を送り出せるような通学路の整備を切にお願いしたいと思っております。スロープの整備、車と生徒の導線のシュミレーションをされるとのことでしたので、ぜひ安全な通学路の確保についてはよろしくお願いいたします。

4点目は、校区についてです。中学校が2校になると、基本的には近くの学校に通うことになると思いますが、場合によっては、子供たちや保護者の多様なニーズに応える意味で、日本でも、いくつか校区の希望を選べるというような学校がございまして、中間市も線でびったり引く形ではなく、多様なニーズに対応するために、子供の適性を考え、保護者や子供たちが希望する学校へ通えるような自由度も必要ではないかと思っておりますので、ご検討いただければと思います。

最後の5点目ですが、教育予算の充実です。税収の減少ということで、その辺りの厳しさは承知しているところでございますが、やはり学校再編を起爆剤として、家族を呼ぶ、税収を上げられるような魅力的なまちづくりを行って、教育予算を充実させていくには、やはり教育にはお金がかかります。教具、教材、設備の充実には、予算が必要でございます。そういった教育予算の充実につきましても、切にお願い申し上げたいと思っております。

福田市長

大変貴重なご意見ありがとうございました。再編とまちづくりは、一体だということは、本当にそのとおりだと思います。現在、中学校4校、小学校6校で、各校区ごとに校区を中心として、まちづくりをやってくださっている市民の方々の活動がございます。そこに、参加させていただく度に思います。校区ごとの皆さんの活動というのは、活きづいていると思います。どこでやっているかという、やはり学校中心だったりします。学校だからというよりも、拠点地があるかどうかということでございます。学校があっても充実していない場所もあります。それを言うと、太田教育委員がおっしゃるように、魂がこもっていないとまちづくりはできません。今回の再編等々に関しましても、ただやみくもに数がこうなるからとか、そういったことも一理ありますが、基本持続可能なまちづくり、子供のためにどうしたら良いかということで、今回の再編が進んでいます。そうすることによって、子供たちの教育の充実と地域の人との関わり合いが、今

さらに深まっていればいいなということを、私たちは今考えているところです。確かに、新しい校舎だとみんなワクワクします。新しい校舎を建てるためには予算が必要です。その予算を出すには、税収を上げなければいけない。私たち行政は、削減することが第一ではあるものの、大事なものは、いかに税収を伸ばすかという産業の創出です。産業の創出の中には、実は教育が大事なことであって、教育が充実していく延長線上に、おそらく産業が産まれたり、あるいは産業を司っている方々が、このまちだったら住もうという PR にも、つながっていくと思っています。太田教育委員が、おっしゃる特徴ある校舎というのは、中身に特徴のある学校をつくってほしいというように理解しております。今後、皆さんとしっかりご意見を共有しながら、やっていきたいと思います。それから校区の希望についてです。これは時代が変わってきているものと推測します。専門的な部分となりますが、希望制にしますと、不平等が起きてくるということも耳にします。どこの校区にいても、楽しく学べるということが大事なのではないかと思います。これを充実した教育、そうすると予算も充実してくるし、再編によるまちづくりが明るく楽しいものになる。それは、特徴のある校舎、学び舎、教育づくりであり、希望の場所であると考えております。

それでは、衛藤教育委員、お願いします。

衛藤教育委員

最後に意見を述べますが、私の意見も意見を述べてきました 2 人の教育委員さんと重なる内容もありますが、それは、教育委員が同じ内容についてぜひ実現してほしいと願っているからだご理解ください。

学校再編に関しては、今回で 3 回目の意見交換になりますが、これまで市長さんが示された学校再編として、東中学校と中間中学校の 2 校の敷地を活用する方針が示されました。私は個人的には、今でも他の選択肢もあると思っていますが、12 月議会に「新中学校施設整備実施計画策定業務委託料」が補正予算として計上されましたので、今回は提示された方針を実現させていくプロセスで、配慮してほしい、いくつかの点で意見を述べたいと思います。再編の目標である「子供たちが通いたい学校」「保護者が通わせたい学校」「教職員が働きたい学校」の実現に向けて、教育委員会事務局が精力的にきめ細かな問題等を含めて保護者・教職員に対してアンケート調査をしたり、何度も何度も PTA と協議をしたりして、いろいろな意見をまとめてこられました。この取組を基に思っていること、考えていることを述べたいと思います。4 点あります。

まず 1 点目は、高機能かつ多機能で変化に対応し得る弾力的な施設環境の

整備に向けた新校舎、体育館、時代のニーズに合った最新の施設・設備の整備に関する意見は、今回の中間市の学校再編は近隣の水巻町、芦屋町、遠賀町、岡垣町の4町では、中間市が最初に学校再編に取り組んでいます。中間市に続いて、遠賀4町も今後、順次学校再編が行われるものと思いますが、その点から言えば、中間市の再編の取組、過程、手順等がモデル的な役割を持ち、後に続く4町が中間市をモデルとして学校再編が進められていくのではないかと考えています。そういう意味では、中間市が先進的で外見的にも誇れる素晴らしいデザインの新築の校舎づくりが、進められることが市民の願いとして、アンケート調査から判断できます。新築の校舎づくりは、既存の建物の活用では限界があり、困難と無理が伴い不可能と考えます。特にアンケート結果では、保護者が「教室や廊下等の全てが狭く老朽化している。2校とも立て替えてほしい」と切望しているとともに、すでに2校とも、50年の耐用年数もオーバーしていることを含めて、新築校舎の建設をぜひともお願いいたします。学校再編では、ハードな面とソフトな面がありますが、今回は、校舎や周辺整備などのハードの部分について意見を述べますが、校舎の全体像や青写真等が分かれば、それに合致する高機能かつ多機能で変化に対応し得る、弾力的な施設環境の整備についても、改めて個々について意見を述べたいと考えています。また、体育館については、私は市内の全ての中学校に勤務しましたが、今の体育館の広さは狭くて、長さも全生徒が一斉に使ったときは、ぎりぎりの状態です。今の広さで再編された場合、全校生徒が使う場合は、すごく窮屈に感じますし、その上、主にボールを使った球技種目には使えますが、もっと多様な使い方ができる体育館を建築してほしいし、これから先の気候変動を考えたとき、最近の地球の温暖化の変化や熱中症予防のためにも、快適で大汗をかかなくて済む、エアコンの設置は不可欠と思います。加えて、指定避難場所としても、快適で長期間避難できるような施設としての機能を保持すべきと思います。もう一つの考え方として、これまで何代にも及ぶ市長さんが、中間市の人口増加のために色々な施策を講じてこられたと思いますが、特に企業誘致に力を注がれたと思うのですが、顕著な結果は伴ってきたのでしょうか。学校は家族を引き寄せてくる力、集まってくる大きな影響力を持っていると思っています。その良い例が、東中学校が建設されて約50年になりますが、開校当初から比較すると学校周辺は家を新築できるだけの土地が見当たらないぐらいに民家で埋め尽くされています。このことが、学校が人を集める力を持っていることの証明になると思います。このことから考えて、素晴らしい校舎を建築することで、家族の移動も考えられ、若い年代層も集まり人口増加につながっていくだ

ろうと思います。実は、私は先月、北九州教育事務所管内の教育委員の研修会に、フレックス型単位制高校の県立西田川高校で研修を受けました。西田川高校は志願者の定員割れの問題が、ささやかれた部分もあると思いますが、目を見張るような新しい校舎、新たな教育課程に編成をし直し、生徒数も年々増え、入学定数を満たす状況に見事に変身していました。中間市の目指している「生徒が通いたい」「保護者が通わせたい」学校の姿を見た感じでした。また、校門までの入り口は狭い道路ですが、保護者も含めた駐車場は100台位が駐車できるスペースが広がっており、大変使いやすく、保護者も安心して利用できる広さでした。このことから、学校が人を集める影響力を持っていることを実感しました。

2点目は、敷地内高低差の解消についてです。前に意見を述べた2人の教育委員さんに市長さんが回答された部分と重なりますが、敷地内高低差の解消についての意見としては、市長さんもお承知のとおり、再編方針の両学校とも敷地の高低差が大きな課題と思っています。東中学校は、敷地内の高低差が大きく、特に学校の敷地とグラウンドの高低差が目立ち、グラウンドまでの移動は勾配の大きい階段を利用しなくてはならないから、急いで降りることもできなく、不便さを感じ、特に地域住民の指定避難場所として、地震時には安全面から考慮してグラウンドへ移動することになりますが、高齢者にとっては危険であり、移動にもてこずるような高低差になっています。今も、東中学校は地域住民の指定避難場所と思いますが、今まで大きな地震もなく、避難も危険も不便さも体感しなくてすみましたが、いざ大地震が発生した場合に一斉に求められるのは、安全に移動できることと、安心を確保できる指定避難場所としての機能を有するためにも高低差の解消は不可欠だと思います。

中間中学校は、敷地内の高低差が激しく、現状では校舎の敷地と段差の大きさは、階段による移動ではなく、坂地の高低差となっているので、見た感じは段差の激しさは感じませんが、低い方の敷地の一部は、浸水想定地域に該当していますし、市役所側に位置している敷地は、広大な面積を有しており、グラウンドからは見下ろすほどの高い段差となっており、段差の解消によって、色々な学校施設の整備につながり、グラウンドも大きく広げることができます。しかも、川西地区の住民の指定避難場所としても最適な場所となり得ると思います。

3点目は、アクセス道の整備についてです。東中学校の学校へのアクセス道路と通学路は学校周辺の道路として、学校再編時には整備をしなければならない教育環境の一つだと思いますが、市長さんもお承知のとおり、学校前の信号から進入できる通学用の道路が一つしかありません。また、道

路幅は大型車2台が離合できない道幅になっており、そのうえ歩道の幅も広くなく、その道路を生徒と自動車等が共用しており、危険と隣り合わせの通学路となっているのが実態です。今後、再編のために校舎建設を進めるためには、現在、生徒が利用している通学路に工事車両が出入りすることは、子供たちの安全安心の確保の点からは無理だと思います。また、車社会の時代になっており、PTAの会合や保護者会等の場合に、車を利用して学校に訪問されていると思いますが、通学道路の狭さを感じている保護者の方も多いと思います。このことがアンケート調査で「道路を広げる等の整備が必要」と「新たなアクセス道の整備が必要」が66.6%の回答数となっています。3分の2の方が、整備が必要だと感じています。

中間中学校は、東中学校と同様に遠賀橋からつながる通学道路を主に利用していると思いますが、校門までの道路は、中型自動車に離合できる程度の道幅になっています。校門から校舎までは自動車が離合できない道幅になっています。緊急避難を必要とする災害等が発生した場合、保護者等が車で送迎する場合、校門付近に身動きのできない渋滞が予想されますので、生徒の安全と安心を確保するためにも、道幅の広い道路の整備が不可欠です。そのことがアンケート調査で「道路を広げる等の整備が必要」と「新たなアクセス道の整備が必要」が58.0%の回答数になっています。また、中間中学校は川西地区の住民の指定避難場所に定められていますので、今の道路の状況では、大勢の人数が一度に避難できない広さなので、指定避難場所としての機能を果たすためにも、道路の拡幅が不可欠だと思います。

最後4点目に、法面の整備についての意見としては、東中学校は全周囲が法面で囲まれており、再編に関する昨年の総合教育会議の時に、私が法面の整備も学校建設費用に含まれていませんかという質問に対して、副市長さんが「法面の整備、周辺の防災対策は、極端に言ってしまうと、学校再編ではなく、しっかり市として行政としてやるべきことと考えています。ですから、学校再編にコストを乗せて検討するのは、やや疑問を生じます。行政としてやるべき問題として、認識しておりますので、教育委員会というよりも、市長部局で予算編成してやっていきたいと考えております。」との回答でした。現時点で学校の法面の整備や工事が、いまだに進んでいませんので、令和10年4月の開校予定までに木々の伐採だけでなく、既存擁壁の改修を含めた法面の改善と、維持し続けられるような整備をしてほしいという意見がアンケート調査に寄せられていました。また、法面の整備に伴って、今は一方向しか設けられていない東中学校の進入道路を全方向に設けていただくような整備もぜひ考えていただきたいと要望する意見

も記述されていまして。以上が私の意見ですので、何卒よろしくお力添えをお願いいたします。

福田市長

大変貴重なご意見ありがとうございました。委員がおっしゃるように通いたくなる学校、通わせたい学校、職員としては働きたい学校、時代に合った学校をつくっていくべきだとおっしゃっていましたように、それに沿うように今後進めていきたいと思っております。そのためにも新築で先進的なデザインのすばらしい学校をみてきて、そのようなことも必要だと思いますが、やみくもに新築にしますとは、ここではいえません。ただ新しくするだけではないということを、ご理解いただければと思います。それから、新築の校舎であれば、子供たちが通いたくなる、そうすると人口が減っている中、子供たちがそこに行きたいということが、産業創出と企業誘致になるというのは、おっしゃるとおりですが、例えば、熊本県は台湾の半導体の企業が来て、すごく賑わっています。ところが反面、家族を連れてきたくても住宅がないことや、子供たちをどこで学ばせるのかということなどが一挙に問題となってきたりすることもあります。そのようなことも含めまして、私たち行政と教育は一体であります。中間市はこういう教育をやっているから、来てほしいというようなまちづくりをやりたいと思っています。それと個々の問題になりますが、法面や通学路を含めて様々な問題点があることは承知しております。最近、特に子供さんを車で送迎する保護者が増えてきていまして、交通渋滞が起きたり、Uターンができないなどの問題が増えている中、道幅を広げたいのですが、どう広げるかというのは、今後、協議会や予算が成立しましたら、そのような機関に相談してまいりたいと思います。それから、学校問題だけではなく、まちとして法面等に関しては、令和10年4月を待たずして、私たちは進めていかなければいけない問題だと思っておりますので、検討していきたいと思っています。それから、東中学校は全方面から通学できるような道をつくってほしいということも、当然ながら、やらなければいけないと承知しておりますので、今後進めてまいりたいと思っています。いずれにしましても、新しいものをつくるときに、委員の皆さまから出た意見を総合しますと、重要な問題があります。重要な問題とは何なのか、総じて申し上げますと、時代のニーズに合った充実した最新の施設をつくってほしいということ、そこには時代のニーズにあった設備も整備するべきだということがうかがえます。校舎のみならず、体育館の整備、敷地内の高低差の解消、法面の整備、アクセス道の整備等を私たちはやらなければいけないということです。いずれにしましても、教育委員の皆さま、携わっている

事務局、PTA の皆さまは、一枚岩だと思っています。中間市のことで、中間市に住んでいる子供たちの未来と、それに携わっている市民の皆さまが、やってよかったと思えるようなまちづくりをやっていきたくと思っていますので、今後ともご意見を含めまして、ご協力いただきたいと思います。以上ですが、他ご意見ございませんでしょうか。

ないようですので、本日はたくさんのご意見を本当にありがとうございました。学校再編に伴い、時代のニーズに合った教育環境を早期に整備し、本市の宝ものであります子供たちが充実した環境の中で過ごすことができるようにしていくことは、喫緊の課題であることを再認識いたしました。本日、皆さまからいただきました貴重なご意見を踏まえまして、引き続き本市の教育環境の向上に取り組んでまいりたいと考えております。意見交換につきましては、以上とさせていただきます。

それでは、清水教育部長にお返しします。

清水教育部長

福田市長ありがとうございました。終わりに、蔵元教育長から一言お願いします。

蔵元教育長

その前に、太田教育委員から質問がありました教育予算の充実について、今ちょうど、新年度予算の編成過程でございますが、この質問に意見なり、回答をいただいていないので、市長、副市長のいずれかに考え方を教えていただきたいと思います。

田代副市長

現在、令和7年度予算編成中で、なかなか財源確保が厳しく、どうしても必要な予算を削らなければならないところが多々生じてはおります。その中でどういった政策を優先させるのか、市長は中間市の3本柱は、教育、福祉、経済といつもおっしゃっています。ですので、それを踏まえまして、限られた予算であります、何を優先するかというのであれば、第一に教育ということです。それを踏まえて、しっかり予算を編成していきたいと考えております。

蔵元教育長

本日はありがとうございました。私といたしましても、時代のニーズに合った教育環境の整備が、本市の喫緊の課題であると考えております。本日意見交換をいただきましたとおり、中間中学校、東中学校の両敷地の活用においては、多くの課題があるということが改めて確認されました。しかし、市長よりしっかりと対策を講じるという回答をいただきましたので、私を含め委員の皆さまも、一定の納得をされたことと認識をしております。

本日の意見交換を踏まえ、市の方針に基づき、両敷地を活用していくことについて、来年１月に開催されます定例教育委員会会議で協議し、学校施設整備方針案を決定したいと考えております。今後につきましても、小学校の再編の他、社会教育施設、社会体育施設の更新を進めていく必要がありますので、引き続き皆さまのご支援とご協力をよろしくお願いします。以上です。

清水教育部長

蔵元教育長ありがとうございました。以上で、本日の議題はすべて終了いたしました。これをもちまして、令和６年１２月中間市総合教育会議を閉会いたします。皆さま、ありがとうございました。

[閉会時刻：１５時１０分]